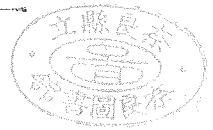




概 要



沿

革

幕政の頃我が大和國は郡山、高取、柳本、橿羅、芝村、小泉、柳生、田原本の八藩が分封管治し、和歌山、津、久居、大多喜、壬生の五藩の分邑、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家等に分屬してゐた、明治元年五月、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家、管領等を奉還し同年五月奈良縣を置き之を合せ管轄し、同二年六月各藩版籍を奉還し、同三年二月奈良縣の一部を分つて五條縣を、同四年七月藩を廢して縣を置き、郡山縣、高取縣、柳本縣、橿羅縣、芝村縣、小泉縣、柳生縣、田原本縣となつたが、同年十一月各縣を廢して更に奈良縣を設け、大和全國を統轄するやうになつた、明治九年四月奈良縣を廢し堺縣に併合し更に明治十四年二月堺縣は大阪府に編入せられたため、大阪府に屬したが明治二十年十一月十日大阪府を割いて、再び奈良縣を置き、大和全國を管轄して以來今日に至つてゐる、明治三十四年四月添上郡外十四郡を合併して十郡とし、同三十一年二月添上郡奈良町に市制施行、大正十二年郡制廢止、現在は一市十郡百五十ヶ町村を管轄してゐる。

土

地

位 置 本縣は畿内の東南部に位し一市十郡二十九町百二十一村を管轄してゐる、東は三重縣に境し西は大阪府に隣り南は和歌山縣に境し北は京都府に接し、東經135度33分より起つて136度12分に至り北緯33度52分より34度47分に達してゐる。

地 勢 南北に長く東西に狭く山岳は四面を圍繞して北方縦に開通してゐるのみである、東は三國山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等の群峰を隔て、三重、和歌山縣に境し南は峻嶺相重つて和歌山縣の諸嶽山嶽と交又し、西は金剛、葛城、信貴、生駒の連山起伏して大阪府と境を劃してゐる。

山嶽及河川 山嶽の大なるものに七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等があり、何れも南方に巍峨として屹立してゐる、河川は飛鳥、富雄、龍田、葛城共の他數多の小川が合流して大和川となり西流して大阪府に入り、宇陀川は源を宇陀郡に發し三重縣を経て名張川となり再び遙かに北部を匯りて京都府に赴き、吉野川はその源を大臺ヶ原に發し中央を貫流して紀ノ川となり南海に入り、又十津川、北山川は共に吉野郡の山間に發し和歌山縣を経て南海に注いでゐる。

面 積 本縣は東西64.13軒強南北102.22軒弱で、面積は3,688.6方軒である、之を郡市別に觀て最も大なるは吉野郡の2,262.7方軒で總面積の六割二厘を占め、宇陀、山邊、生駒、添上、磯城、北葛城、宇智、高市、南葛城の各郡順次之に亞ぎ奈良市の29.8方軒は最小である。

地質 本縣の地質は錯雜混入してゐるが、之を大觀すれば南半は大部分古生層にして中生層は其の南端の一部を占め北半は火成岩より成つてゐる、地質には花崗岩、安山岩があり、水成岩層中には片麻岩の地が多く之に亞いで第三紀層が多く、其の他の地層は此等の間に介在して小面積を占むるのみである。

民業及物産 民業は農業を主とし山地に於ては林業を兼ね、又市街地には専ら商工業に従事し養蠶、製茶を業とするものも亦尠くない、物産の主なるものに米、賣藥、綿絲紡績、酒類、樂器、杉用材、麥、繭、蚊帳、メリヤス生地、金巾、檜用材、シャツ及ズボン下、蠶絲類、靴下、綿蚊帳地、墨、西瓜、粗布(百萬圓以上)、醬油、綾綿布、鶏卵、筆、鉛、マニラ麻綱、木炭、屠肉、木箸、凍豆腐、瓦、ポプリン、下駄、洋服、薪炭材(以上50萬圓)等があり、生産總額は116,022,767圓で現住一人當の生産額は202圓18錢である。

氣 象

氣 壓 昭和十一年の平均氣壓は761.6耗で前年に比べて0.3耗低くその最高は三月の761.2耗最低は七月の752.4耗である。

氣 溫 昭和十一年中の平均氣溫は攝氏13.9度で平年より0.3度低く、年内を通じ氣溫の最高極は八月五日の36.4度、最低極は三月六日の零下6度である。

降 水 量 昭和十一年に於ける降水量は1,111.5耗で平年の1,351.6耗に比較すれば240.1耗少く一ヶ月の平均降水量は92.6耗で降水量の最も多い月は十月の200.5耗、最少は一月の18.7耗である。

戸 口

人口靜態

現住人口 警察戸口調査規程に依る昭和十一年末の戸口は戸數122,774戸人口623,335人内男310,530人女312,805人で女100人につき男99.3人に該り一戸當の平均人員は5.07人である。前年末に比し人口7,751人を増し一方耗當の人口は169人となつてゐる。

現在人口 昭和十一年國勢調査の結果に依る現在人口は620,471人で内男306,011人女314,460人女100人につき男97.3人で昭和五年國勢調査に比べて總數24,246人内男10,555人女13,691人を増加し、一方耗當人口は168人である。

一方軒當人口

	國勢調査		戸口調査=依ル 現 住 人 口		國勢調査		戸口調査=依ル 現 住 人 口
	現在人口	常住人口			現在人口	常住人口	
添上郡	208	209	213	北葛城郡	716	722	745
生駒郡	440	441	441	南葛城郡	448	468	490
山邊郡	284	231	217	宇智郡	283	284	285
磯城郡	504	506	514	吉野郡	44	43	44
宇陀郡	113	114	115	奈良市	1,878	1,871	1,759
高市郡	556	575	594				

人口動態

婚 姻 昭和十一年の婚姻は5,459件で前年に比し49件少く、人口千に對する婚姻率は8.73件で市部は6.89件、郡部は8.89件である。

離 婚 離婚は358件で前年に比し59件を減じその人口千に對する割合は0.57である。

出 生 出生總數は17,260人内男8,754人女8,506人で女100人につき男103人に該り前年に比し766人(4分)を減少し人口千に對する出生率は29.59である。

死 産 死産は總數1,109人内男606女500男女不詳3で前年に比し68人(5分8厘)を減少し人口千に對する死産率は1.90より1.77に下つてゐる。

死 亡 死亡者は總數11,780人内男6,147人女5,633人で前年と大差なく2人を増したのみで人口千に對する死亡率は18.83である、之を死因別に觀ると腦出血、腦栓塞及腦血栓の1,188人最も多く總數の1割1厘を占め呼吸器の結核、老衰、肺炎、癌其の他の悪性腫瘍、先天性弱質、腎臓炎等は何れも死亡者多く各500人以上を算してゐる。

自然増加 昭和十一年に於ける本縣人口の自然増加は5,480人内男2,607人女2,873人で人口千に對する増加率は8.76に下り、前年に比べて768人(1割2分3厘)少く、男女の割合は女100人につき男90.8人である。

生 産 總 額

昭和十一年に於ける生産總額は126,072,767圓で前年に比し6,068,225圓(5分1厘)を増してゐる。

本縣生産總額の趨勢は世界大戰當時174,598,746圓を算した大正八年を最高として年に依り高低はあつたが、漸減の傾向を辿り昭和六年にはその半にも及ばない80,819,106圓となつた。昭和七年より次第に増加して最近は年と共にその額を加へ再び大正八年時代に近付かんとしてゐる。

之を種類別に観ると工産は依然として最も多く74,341,290圓で王座を占め、以下農産34,600,166圓
林産8,351,545圓 蠶絲業産5,293,343圓 畜産2,199,610圓 水産689,939圓 鑛産546,874圓の
順となつてゐる。

郡市別生産總額の最高は北葛城郡の20,326,434圓で最低は宇智郡の4,434,686圓である、奈良市を除く一町村當の生産額は732,915圓であるが平均額を超えるものは僅々40ヶ町村に過ぎない、生産總額を現住戸口に對比すれば一戸當1,026圓一人當202圓となり前年に比し前者42圓 後者7圓を増してゐる。

最近十ヶ年間及郡市別の生産總額の割合は次の通である。

		總 數	農 産	蠶 絲 業 産	工 産	林 産	鑛 産	水 産	畜 産	同 上 指 數	現 作 一 人 當
		總 數									
昭和	年										円
	2	100.0	26.7	8.8	56.4	5.4	0.3	0.3	2.1	100	202.57
〃	3	100.0	26.6	9.9	55.3	5.7	0.4	0.2	1.9	101	203.38
〃	4	100.0	26.6	9.6	56.3	5.0	0.3	0.3	1.9	102	204.46
〃	5	100.0	26.5	7.2	59.1	4.3	0.3	0.5	2.1	74	149.74
〃	6	100.0	24.6	6.7	60.8	4.7	0.2	0.6	2.4	65	131.70
〃	7	100.0	28.3	6.4	57.8	4.6	0.3	0.6	2.0	71	104.77
〃	8	100.0	26.2	7.0	59.2	4.8	0.3	0.6	1.9	84	165.76
〃	9	100.0	27.4	3.5	60.6	5.6	0.4	0.6	1.9	90	179.41
〃	10	100.0	27.4	4.8	57.7	7.4	0.5	0.5	1.7	97	194.93
〃	11	100.0	27.5	4.2	59.0	6.5	0.4	0.5	1.8	102	202.18
		郡 市 別									
添 上 郡		100.0	68.9	3.1	20.6	3.4	0.4	0.5	3.1		136.09
生 駒 郡		100.0	29.7	0.5	64.6	0.4	0.5	2.3	2.0		209.56
山 邊 郡		100.0	53.1	8.0	32.8	3.4	0.2	0.5	2.0		153.73
磯 城 郡		100.0	42.3	9.9	43.7	1.5	0.1	0.2	2.3		179.41
宇 陀 郡		100.0	48.1	15.1	17.7	15.1	0.9	0.2	2.9		116.43
高 市 郡		100.0	20.0	1.4	77.2	0.7	0.1	0.1	0.5		303.61
北 葛 城 郡		100.0	22.0	0.8	73.4	0.2	1.1	0.3	2.2		261.21
南 葛 城 郡		100.0	27.9	2.0	66.2	1.6	0	0.2	2.1		226.12
宇 智 郡		100.0	30.8	9.4	54.3	2.0	0.3	0.6	2.6		171.59
吉 野 郡		100.0	18.1	10.1	24.6	44.8	0.7	0.5	1.2		149.38
奈 良 市		100.0	3.0	—	96.2	0	0	0	0.8		292.27

主 要 物 産

昭和十一年の主要物産は米の22,708,484圓を首位とし賣藥、綿絲紡績、酒類、樂器、杉用材、麥、繭蚊帳等順次之に亞ぎ何れも200萬圓以上の産額を有してゐる。

今50萬圓以上の物産を擧ぐれば次の通である。

米	22,708,484	西	瓜	1,171,699
賣 藥	13,349,876	粗	布	1,000,635
綿 絲 紡 績	10,805,522	醬	油	930,787
酒 類	6,562,626	綾 綿 布		919,424
樂 器	5,028,529	鷄 卵		895,701
杉 用 材	4,195,006	筆		872,000
麥	4,059,751	鈿		846,288
繭	3,766,703	マ ニ ラ 麻 綱		797,710
蚊 帳	2,441,518	木 炭		777,914
メ リ ヤ ス 生 地	1,886,035	屠 肉		763,900
金 巾	1,846,524	木 箸		719,720
檜 用 材	1,737,300	凍 豆 腐		660,571
シ ャ ッ 及 ズ ボ ン 下	1,457,378	瓦		649,588
蠶 絲 類	1,268,663	ホ ブ リ ン		648,396
靴 下	1,245,995	下 駄		580,905
綿 蚊 帳 地	1,240,532	洋 服		541,751
墨	1,229,398	薪 炭 材		511,712

農 業

耕地面積 昭和十一年末に於ける耕地面積は44,765町3段内田33,122町2段(7割4分)畑11,643町1段(2割6分)で耕地は總面積の1割2分に該つてゐる。

之を自作、小作別に觀ると自作地は24,765町(5割5分3厘)小作地は19,942町6段(4割4分7厘)である。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數		田		畑		指 數					
		自 作	小 作	自 作	小 作	自 作	小 作	總 數		田		畑	
								自 作	小 作	自 作	小 作	自 作	小 作
昭和	7	24,699.6	20,497.0	16,356.1	17,194.3	8,343.5	3,302.7	100	100	100	100	100	100
〃	8	24,790.9	20,153.4	16,413.7	16,937.8	8,377.2	3,215.6	100	98	100	98	100	97
〃	9	24,705.1	20,131.7	16,420.6	16,848.5	8,284.5	3,283.2	100	98	100	98	99	99
〃	10	24,825.7	19,942.6	16,504.1	16,689.8	8,321.6	3,252.8	101	97	101	97	100	98
〃	11	24,765.0	20,000.3	16,438.7	16,683.5	8,326.3	3,316.8	100	98	101	97	100	100

同年中の耕地面積の移動は擴張140町9段内田14町2段(1割1厘)畑126町7段(8割9分9厘)その潰廢は111町4段内田82町6段(7割4分1厘)畑28町8段(2割5分9厘)でその他の地目變換等による移動を加へ、前年末に比し3町歩を減少してゐる。

農 家 戸 數 昭和十一年末に於ける農家戸數は62,490戸にして總戸數の5割9厘に當り前年に比して1,559戸(2分4厘)を減少してゐる。

農業を専業とせるものは41,427戸(6割6分3厘)兼業とせるものは21,063戸(3割3分7厘)で、更に之を自作、小作別に觀ると自作21,981戸(3割5分2厘)小作17,099戸(2割7分3厘)自作兼小作22,410戸(3割7分5厘)となつてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	專 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作	指 數					
								總 數	專 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作
昭和	7	64,888	40,824	24,064	22,369	18,679	23,840	100	100	100	100	100	100
〃	8	64,954	41,338	23,616	22,666	18,438	23,800	100	101	98	101	99	100
〃	9	64,151	40,750	23,401	22,705	17,744	23,702	99	100	97	102	95	99
〃	10	64,049	42,041	22,008	22,456	17,716	23,877	99	103	91	100	95	100
〃	11	62,490	41,427	21,063	21,981	17,099	23,410	96	101	88	98	92	98

耕地所有農家戸數 昭和十一年末に於ける耕地所有農家戸數は56,171戸で前年に比し183戸(3厘)を増してゐる、耕地五段歩未満の所有者は總數の5割6分5厘を占め、五段以上一町歩未満は2割6分6厘で一町歩以上は1割6分9厘に過ぎない。

最近五ヶ年間に於ける趨勢を観ると次の通である。

	年 末	總 數	五未 段滿	五以 段上	一以 町上	三以 町上	五以 町上	十以 町上	五以 十町上	指 數							
										總 數	五 段	未 滿	五 段	一 町上	三 町上	五 町上	十 町上
昭和	7	55,629	31,693	14,625	7,569	1,230	404	103	5	100	100	100	100	100	100	100	100
〃	8	55,248	31,528	14,442	7,560	1,235	368	111	4	99	99	99	100	100	91	108	80
〃	9	55,135	30,970	14,785	7,751	1,186	342	96	5	99	98	101	102	96	85	93	100
〃	10	55,988	31,546	15,155	7,787	1,091	313	95	1	101	100	104	103	89	77	92	20
〃	11	56,171	31,742	14,968	7,981	1,058	326	94	2	101	100	102	105	86	81	91	40

農産物價額 昭和十一年の農産物總價額は34,600,166圓で前年より1,699,239圓(5分2厘)多くなつてゐる。

農産物をその利用上より分類すると米の22,708,484圓が最も多く總額の6割5分6厘を占め、麥4,059,751圓(1割1分7厘) 果菜類1,944,193圓(5分6厘) 果樹類1,549,318圓(4分4厘) 芋類1,342,913圓(3分9厘) 工藝農産物849,829圓(2分5厘) 根莖類716,416圓(2分1厘) 莢實類399,375圓(1分2厘) 米麥を除く穀菽類333,313圓(1分0厘) 葉菜類296,754圓(9厘) 花卉類197,665圓(5厘) 綠肥用作物115,074圓(3厘)順次之に亞ぎ農産種苗類の87,051圓(3厘)が最少である、耕地一段歩當の農産額は77圓29錢で前年より3圓80錢(5分2厘)を増し、郡市別に觀て最も多いのは磯城郡の98圓38錢、最少は吉野郡の51圓28錢である。

最近五ヶ年間に於ける比較及郡市別は次の通である。

	總價額	米	麥	其他穀類	果樹類	芋類	莢實類
--	-----	---	---	------	-----	----	-----

總

昭和	年 7	24,694,582	17,011,271	1,822,952	305,699	1,254,981	1,003,164	265,789
〃	8	27,070,479	17,955,898	2,530,134	298,814	1,447,111	1,196,743	294,847
〃	9	30,448,347	20,590,030	2,946,746	288,313	1,377,923	1,181,988	288,907
〃	10	32,900,927	22,074,545	3,252,911	326,697	1,574,669	1,343,177	325,320
〃	11	34,600,166	22,708,484	4,059,751	333,313	1,549,318	1,342,913	399,375

郡

市

添上郡	3,656,589	2,443,011	322,121	25,211	88,517	80,711	50,279
生駒郡	5,301,726	3,781,082	491,688	31,788	375,229	117,694	57,384
山邊郡	3,492,362	2,185,440	434,055	41,348	105,111	75,202	35,862
磯城郡	6,011,440	3,914,435	958,150	48,452	171,757	167,539	45,251
宇陀郡	2,156,177	1,672,458	135,543	35,447	29,460	86,959	23,712
高市郡	2,880,271	2,014,710	424,531	12,954	98,638	92,053	25,711
北葛城郡	4,481,225	3,060,214	540,966	33,193	221,989	165,141	94,540
南葛城郡	2,100,145	1,396,972	276,240	12,005	73,008	118,114	26,823
宇智郡	1,366,241	864,292	158,403	12,899	115,681	73,442	8,413
吉野郡	2,685,007	1,028,571	251,936	78,606	264,527	362,332	27,096
奈良市	468,983	347,299	66,118	1,410	5,401	3,726	4,304

果 菜 類	葉 菜 類	根 莖 類	花 卉 類	工 藝 農 產 物	綠 肥 用 作 物	農 產 種 苗 類	耕 地 一 段 步 當	現 住 一 人 當
-------	-------	-------	-------	--------------	--------------	--------------	----------------	--------------

數

1,299,500	282,127	513,657	63,764	705,842	95,457	70,379	54.64	40.03
1,371,400	310,134	595,418	73,287	794,965	100,269	101,459	60.23	43.69
1,766,961	312,263	596,245	106,669	777,523	105,537	109,242	67.91	49.22
1,893,502	267,048	655,059	186,256	803,648	112,953	85,142	73.49	53.45
1,944,193	296,754	716,416	197,665	849,829	115,074	87,081	77.29	55.51

別

254,437	37,447	109,405	3,020	219,705	14,939	3,673	76.11	93.72
200,702	37,502	84,791	87,959	25,466	8,585	2,304	77.13	62.30
347,568	14,598	54,203	7,880	188,916	9,798	3,586	77.74	81.67
440,906	35,329	94,953	40,071	45,530	4,416	38,341	98.38	75.84
43,227	20,444	44,518	2,028	26,120	29,266	4,850	52.99	66.02
105,086	24,747	64,702	1,750	5,526	3,459	3,165	87.13	60.76
238,176	17,859	63,462	15,366	14,629	1,429	14,277	90.46	57.59
125,360	9,162	23,920	29,335	4,565	4,447	1,666	92.27	63.06
63,905	8,039	15,543	286	67,376	21,885	4,817	65.03	52.86
107,546	83,739	147,700	9,320	246,277	16,690	10,402	51.28	27.04
17,280	7,888	13,219	650	5,719	160	—	86.43	8.52

工 業

工場 工場調査規則に依り職工五人以上を使用し又は五人以上の職工を使用する設備を有つ昭和十一年末の工場は803で前年に比し108を増してゐる、之を種類別に観ると紡織工業の247(3割8厘)最も多く、食料品工業の221(2割7分5厘)之に亞ぐ他の金屬工業、機械器具工業、窯業、化學工業、製材工業、印刷業、瓦斯電氣工業等は合せて335である、工場に勤務する労働者の總數は13,328人で前年より1,250人(1割3厘)多く、工場の年内生産額は46,458,184圓で總工産額の6割2分餘を占めてゐる。

工産物價額 昭和十一年に於ける工産物價額は74,341,290圓で前年に比し5,107,253圓(7分4厘)を増し逐年増加の趨勢を示してゐる。

種類別に観て最も多いのは紡織製品の29,553,626圓で總額の4割に當り、現住人口一人に付ての工産額は119圓26錢となつてゐる、郡市別に観ると二大紡織工場と大和賣藥の主産地及奈良市が最も多く、奈良市15,469,286圓、北葛城郡14,924,861圓、生駒郡11,524,665圓、高市郡11,104,129圓で之等一市三郡を合せて總額の7割1分3厘を占めてゐる。

最近五ヶ年間に於ける比較並に郡市別は次の通である。

		總價額	紡織製品	機械及器具製品	化學製品	飲食品料	雜製品	特別製品	現住一人當	
		總			數					
昭和	年	円	円	円	円	円	円	円	円	
	7	50,038,281	16,542,250	686,152	16,292,485	8,193,612	8,121,759	202,023	81.11	
〃	8	60,597,626	23,501,304	1,208,982	16,977,064	9,845,870	8,878,629	185,777	97.79	
〃	9	67,281,976	23,881,037	1,693,260	17,242,805	9,770,549	9,516,372	177,953	108.70	
〃	10	69,234,037	29,928,588	1,733,191	17,688,789	9,608,678	10,099,736	175,055	112.46	
〃	11	74,341,290	29,553,626	5,952,080	15,254,938	11,046,343	12,361,449	172,854	119.26	
		郡			別					
添上郡		1,095,905	318,851	3,725	34,051	583,053	156,225	—	28.09	
生駒郡		11,524,665	8,896,995	26,274	166,346	1,072,918	1,362,132	—	135.42	
山邊郡		2,157,888	407,056	64,627	124,939	1,018,827	541,939	—	50.45	
磯城郡		6,225,419	1,769,418	55,886	1,237,118	1,514,669	1,648,328	—	78.54	
宇陀郡		791,964	43,114	22,984	7,280	464,658	253,928	—	20.57	
高市郡		11,104,129	1,633,845	2,440	8,052,438	679,486	735,920	—	234.24	
北葛城郡		14,924,861	10,234,913	273,663	1,315,870	1,686,591	1,363,824	—	191.80	
南葛城郡		4,986,734	548,067	6,771	3,332,457	688,006	411,433	—	149.74	
宇智郡		2,406,953	876,478	29,833	193,702	484,207	822,683	—	93.13	
吉野郡		3,653,936	55,442	35,695	696,392	1,584,286	1,282,169	—	36.80	
奈良市		15,469,286	4,719,447	5,430,130	94,845	1,269,642	3,782,868	172,854	281.08	

林 業

山林面積 昭和十一年末に於ける山林面積は179,000町4段で前回調査の昭和八年末に比し33町6段の減少を來してゐる。

之を種類別に觀ると御料林は67町3段(1厘)、國有林は2,825町3段(1分6厘)、民有林は176,107町8段(9割8分3厘)で更に之を郡市別に觀て最も多いのは吉野郡の125,935町5段で總面積の7割3厘を占め宇陀、添上、山邊、生駒、宇智、磯城、南葛城、高市、北葛城の諸郡順次に亞ぎ最少は奈良市である。

森林植栽 昭和十一年中に於ける森林新植面積は2,868町1段で之が新植樹數は14,102,435本に及んでゐるが前年に比し面積に於て266町1段(8分5厘)樹數に於て718,980本(4分9厘)を夫々減少してゐる、新植は吉野郡がその大部分を占め、面積2,494町9段、樹數11,208,460本で總面積の8割7分總樹數の7割9分に該り他郡は併せて面積373町2段、樹數2,893,975本に過ぎない森林補植は707,540本で前年に比し114,432本(1割3分9厘)を減じ、縣下各郡中吉野郡は477,870本で總補植樹數の6割8分を占めてゐる。

天然造林 昭和十一年中に於ける天然造林は858町9段で内伐採跡地の天然造林は829町8段、無立木地は29町1段である、造林面積の最も多いものは添上郡の220町5段(2割5分7厘)にして、吉野宇陀、山邊の諸郡は何れも百町歩を超え南葛城、生駒、高市、磯城、宇智、北葛城の諸郡順次に亞ぎ奈良市は最少である。

林産物價額 昭和十一年に於ける林産物價額は8,351,545圓で前年に比し502,289圓(5分7厘)を減少してゐる。

之を種類別に觀ると用材は6,427,388圓(7割7分)薪炭材516,405圓(6分2厘)竹材39,530圓(4厘)で林野副産物は1,368,222圓(1割6分4厘)である。

最近五ヶ年間に於ける比較並にその概況は次の通である。

		總 價 額	用 材	薪 炭 材	竹 材	林野副産物	現 住 一 人 當	
		總		數				
昭和	年	円	円	円	円	円	円	
	7	4,021,168	2,849,960	438,463	25,456	707,289	6.52	
//	8	4,975,686	3,512,031	449,440	25,972	988,243	8.03	
//	9	6,212,061	4,346,597	569,460	38,377	1,267,627	10.04	
//	10	8,853,834	7,049,340	487,868	24,453	1,292,173	14.38	
//	11	8,351,545	6,427,388	516,405	39,530	1,368,222	13.40	
		郡 市 別						
添	上	郡	179,697	20,778	61,594	2,423	94,902	4.61
生	駒	郡	70,449	9,556	23,924	5,731	31,238	0.83
山	邊	郡	225,749	55,810	69,835	2,009	98,095	5.28
磯	城	郡	206,440	93,628	47,403	5,084	60,325	2.61
宇	陀	郡	678,710	375,200	66,299	2,596	234,615	17.63
高	市	郡	100,516	39,004	35,927	2,686	22,899	2.12
北	葛	城 郡	32,731	13,631	9,307	185	9,608	0.42
南	葛	城 郡	118,570	22,403	53,656	1,300	41,211	3.56
宇	智	郡	91,102	12,689	22,417	8,815	47,181	3.53
吉	野	郡	6,644,012	5,783,335	125,545	8,697	726,435	66.91
奈	良	市	3,569	1,354	498	4	1,713	0.06

鑛 業

鑛産物價額 昭和十一年の鑛産物價額は546,874円で前年より11,021円(2分)を減少してゐる。

之を種類別に観ると採掘産物は47,960圓（8分8厘）石材、土石及鑛水は498,914圓（9割1分2厘）で全国的な金剛砂を産する北葛城郡は各郡中産額最も多く231,263圓で總額の4割2分3厘を占めてゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通

		總 價 額	採 掘 産 物	石 材・土 石 及 鑛 水	現 一 人 當	住 當	
		總	數				
昭和	年	圓	圓	圓	圓		
	7	239,354	13,455	225,899		0.39	
〃	8	358,470	43,976	314,494		0.57	
〃	9	453,933	50,118	403,815		0.73	
〃	10	557,895	81,095	476,800		0.91	
〃	11	546,874	47,960	498,914		0.88	
		郡	市	別			
添	上	郡	—	19,171		0.49	
生	駒	郡	—	90,508		1.06	
山	邊	郡	—	15,142		0.35	
磯	城	郡	—	14,412		0.18	
宇	陀	郡	23,716	14,495		0.99	
高	市	郡	—	13,055		0.28	
北	葛	城	郡	—	231,263	2.97	
南	葛	城	郡	—	2,743	0.08	
宇	智	郡	—	12,052		0.47	
吉	野	郡	24,244	84,233		1.09	
奈	良	市	—	1,840		0.03	

水 産 業

水産業者 昭和十一年末現在の水産業者は總數4,767人内男4,704人、女63人で業主は4,510人、被用者は257人である、水産業を本業とする業主は140人、被用者は121人で副業とする業主は4,370人、被用者は136人である。前年末に比して業主に於て167人(3分6厘)を減じ被用者に於て14人(5分8厘)を増加してゐる。

水産物價額 昭和十一年に於ける水産物價額は689,939圓で前年に比し61,824圓(9分8厘)を増してゐる、之を種類別に觀るに養殖578,547圓(8割1分) 漁獲111,392圓(1割9分)である、金魚を産する郡山町を有つ生駒郡はその産額最も多く423,331圓で水産總額の6割1分を占め、金魚はその産額341,678圓で本縣水産業の王座を獨占してゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通である。

			總 價 額	養 殖	漁 獲	現 住 一 人 當
			圓	圓	圓	圓
總 數						
昭和	年		521,079	436,931	84,148	0.84
〃	8		644,132	546,444	97,679	1.04
〃	9		648,001	549,709	98,292	1.05
〃	10		628,115	518,590	109,525	1.02
〃	11		689,939	578,547	111,392	1.11
郡 市 別						
添 上 郡			27,703	22,270	5,433	0.71
生 駒 郡			423,331	415,429	7,902	4.97
山 邊 郡			33,055	31,565	1,490	0.77
磯 城 郡			27,439	26,904	535	0.35
宇 陀 郡			11,034	4,917	6,117	0.29
高 市 郡			11,740	10,442	1,298	0.25
北 葛 城 郡			58,661	41,945	16,716	0.75
南 葛 城 郡			10,945	8,294	2,651	0.33
宇 智 郡			24,393	1,162	23,231	0.94
吉 野 郡			56,447	10,428	46,019	0.57
奈 良 市			5,191	5,191	—	0.09

畜 産 業

家 畜 昭和十一年末現在調査の家畜中牛は飼養戸数18,463戸、頭数20,680頭、内成牛18,547頭、犏2,133頭で牝は16,574頭、牡は4,106頭である、前年末に比し918戸(5分2厘)1,055頭(5分1厘)を増加し逐年増加の傾向があり、同年中の出産頭数は1,411頭、斃死頭数は63頭で前者は325頭、後者は25頭を増してゐる。

馬は飼養戸数341戸總頭数375頭、内牝23頭、牡352頭で前年末より40戸(1割5厘)35頭(9分3厘)を減少してゐる。

豚は飼養戸数529戸總頭数1,808頭、内牝は1,200頭、牡は608頭で、前年末に比し103戸(1割9分6厘)332頭(2割2分5厘)の増加を來してゐる。

その他の家畜中山羊は飼養戸数110戸頭数176頭、内牝148頭、牡28頭で前年より31戸(3割9分2厘)22頭(1割2分5厘)を増し、綿羊は近年相當の増加を示し飼養戸数76戸その頭数185頭となつてゐる。

家 禽 昭和十一年六月末に於ける家禽中鶏は飼養戸数37,810戸羽数830,436羽で前年に比し戸数に於て1,086戸(2分8厘)を減少してゐるが羽数に於ては80,706羽(1割7厘)を増してゐる。昭和十年七月より同十一年六月に至る産卵は個数32,807,187個でその價額は895,701圓に及び、價額に於て前年に比し56,160圓を増加して生雛の價額184,183圓と相俟つて1,079,884圓に達し本縣畜産物總價額の4割9分を占めてゐる。

鶯は1,428羽その飼養戸数は205戸で前年に比し37戸(1割5分3厘)も羽数に於て1,251羽(4割6分7厘)を減少してゐる、一ヶ年間の産卵は56,565個、その價額は1,523圓である。

養 蜂 昭和十一年末に於ける蜜蜂の飼養戸数は382戸にして前年より32戸を減じ、箱数は1,562個である、同年中の蜂蜜の産額は8,993圓で前年に比し956圓(1割1分9厘)を増加し、蜜蠟は僅に15圓に過ぎない。

畜産物價額 昭和十一年に於ける畜産物價額は2,199,610圓で前年に比し119,569圓(5分7厘)を増し種別別に觀ると犏は108,155圓(4分9厘) 鶏(産卵共)1,079,884圓(4割9分1厘)牛乳223,692圓(1割2厘)屠殺763,900圓(3割4分7厘)其の他23,979圓(1分1厘)である。

最近五ヶ年間に於ける比較並に郡市別の概況は次の通

		總價額	犢	駒	仔豚	仔綿羊及 仔山羊	鷄 (産卵共)	鶯 (産卵共)	蜜峰 (蜂蜜共)	牛乳	屠殺	現住 一人當
總 數												
昭和	7	1,756,489	16,846	—	6,653	159	851,250	1,575	9,115	185,826	685,065	2.85
〃	8	1,822,634	34,868	—	19,619	196	841,530	1,758	8,884	175,996	739,733	2.94
〃	9	2,012,061	39,579	—	7,318	938	1,003,865	1,914	9,822	190,217	758,408	3.25
〃	10	2,080,041	72,406	—	7,158	423	973,340	2,944	8,086	196,752	813,932	3.38
〃	11	2,199,610	108,155	—	12,997	257	1,079,884	1,717	9,003	223,692	763,900	3.53
郡 別												
添上郡		168,086	1,008	—	419	20	165,103	196	512	828	—	4.31
生駒郡		329,616	2,329	—	422	81	189,428	143	346	17,478	119,389	3.78
山邊郡		126,568	4,428	—	2,735	26	98,295	18	96	20,970	—	2.96
磯城郡		333,294	9,746	—	4,822	23	196,259	267	4,238	35,196	82,743	4.20
宇陀郡		128,810	27,695	—	290	74	45,621	412	396	14,025	40,297	3.35
高市郡		78,546	1,326	—	677	—	71,435	31	160	4,917	—	1.66
北葛城郡		440,915	4,370	—	736	33	127,739	87	979	36,645	270,326	5.67
南葛城郡		160,467	13,700	—	333	—	44,080	80	100	38,262	63,912	4.82
宇智郡		115,523	11,113	—	148	—	37,877	59	616	16,705	49,005	4.47
吉野郡		181,182	23,960	—	1,639	—	88,469	315	1,511	15,441	49,847	1.82
奈良市		136,603	8,480	—	776	—	15,578	109	54	23,225	88,381	2.48

商 業 及 金 融

會社 本縣内に本社又は本店を有する昭和十一年末の會社は430 その拂込資本金及出資額は總額37,409千圓で前年に比し社數5を減じてゐるが、拂込資本金及出資額は738千圓を増加してゐる。

會社の組織より觀ると株式會社147、合資會社181、合名會社102で拂込資本金又は出資額は株式31,084千圓、合資3,794千圓、合名2,531千圓でその平均は株式211千圓、合資21千圓、合名25千圓である。

總會社を資本金高別に觀ると1萬圓未満173、五萬圓未満155、十萬圓未満45、五十萬圓未満44、百萬圓未満9で百萬圓以上のものは僅に株式會社に於て4を數ふるに過ぎない、更に之を業態別に區別すると商業の211最も多く 總數の4割9分を占め、工業の148、運輸業の51、農業の19順次に亞ぎ鑛業は1會社に過ぎない。

銀行 昭和十一年末に於て本縣内に本店を有つ銀行は3行(中1行は清算中)その支店及出張所は63にして支店は前年に比し6を増してゐる、拂込資本金は13,918,975圓、準備金は4,746,700圓にして前年に比し前者は255,700圓、後者は240,000圓を夫々増加してゐる、昭和十一年中の入金は1,822,125,412圓、出金は1,822,349,205圓で利益金は1,149,391圓、配當金は810,000圓である、昭和十一年末の預金現在高は55,859,697圓にして前年末に比し2,671,986圓(5分)を増してゐる。

郵便貯金及郵便爲替 昭和十一年度末に於ける郵便貯金預入人員は466,305人、その金額は41,534,695圓で前年より13,932人 2,041,456圓多く、預入人員一人當金額は89圓7錢にして前年度末に比し一人當1圓77錢を増してゐる。

昭和十一年度中に於ける内國郵便爲替の振出は口數260,325口、その金額5,885,712圓、平均一口22圓61錢にして前年に比し20,148口 262,767圓を増してゐる、拂渡は口數370,839口その金額8,046,852圓、平均一口21圓70錢で5,849口 147,633圓を減じてゐる、外國郵便爲替は振出264口 11,013圓、拂渡2,978口 78,068圓で前年度に比し振出63口 3,689圓、拂渡1,185口 32,203圓の夫々激増を示してゐる。

質營業 昭和十一年末に於ける質營業者は145戸で前年末より9戸多く、その入質件數は176,672件貸付金額は715,741圓一件當貸付金は4圓5錢となり、前年より16,835件 144,110圓を増してゐる、受戻件數は139,508件 之が金額567,129圓で前年より24,232件 77,217圓多く、流質件數は21,507件 89,179圓にして前年に比し3,204件 10,316圓多くなつてゐる。

交通及災害

道路 昭和十一年末に於ける道路總延長は15,684軒531、内國道56軒352、縣道1,213軒097、市道208軒551、町村道14,206軒531で前年末に比し28軒853を増してゐる。

鐵道軌道 昭和十一年末鐵道軌道延長は268軒4で内國有94軒6、私有173軒8、停車及停留場142、内國有26、私有116である、同年中に於ける乗車人員は25,871,107人(一日平均70,686人)降

車人員 25,981,466 人 (一日平均 70,988 人) で貨物營業收入の内旅客収入は 4,389,530 圓、貨物及手小荷物収入は 698,601 圓である。

通 信 昭和十一年度末に於ける郵便局は集配局 69、無集配局 58、總數 127 で前年より 1 局を増してゐる、同年度中の郵便物は通常郵便の引受 44,048,139、配達 46,814,987 で人口に對する割合は一人につき引受 71 通、配達 75 通に該つてゐる、小包郵便は引受 702,222、配達 660,177 で人口一人につき一通個の小包を收發してゐる譯である。

電信取扱局は 109 で發信 355,065、受信 424,262 となり前年に比し局數 7、發信 28,141、受信 70,370 を夫々増加してゐる。

電話取扱局所は總數 109、内交換局 89、通話局 20 にして電話加入者は 7,899 人となり前年に比し局數 7、加入者 368 人を増加し人口千に對する加入者の割合は 127 人となつてゐる。

水災及暴風雨被害 昭和十一年の水災及暴風雨被害損失見積價額は 2,859,124 圓である、特に被害の多かつたのは大和川流域に於ける被害損失見積價額の 1,190,293 圓にして 總見積價額の 4 割 1 分 6 厘を占め、淀川流域の 786,921 圓之に亞ぎ、紀ノ川流域は 324,799 圓、熊野川流域は 165,586 圓で地震に依る被害は 391,525 圓である。

社 會

救護法に依る救護 昭和七年一月より新に實施せられた救護法により昭和十一年度中に救護を受けた者の内縣費負擔に係る者の實人員は 19 人で經費 390 圓、又市町村費負擔に係る者の實人員は 1,738 人で同一人にて二種以上の救護法を受けた者 68 人で經費は 54,357 圓に達し縣市町村合せて前年より人員 1,228 人を減じ金額は 3,571 圓を増してゐる。

慈惠賑恤資金 昭和十一年度末の慈惠賑恤資金は 194,356 圓で資金の支出は 16,516 圓で、歳出 16,805 圓支出の主なるものは教護院費、補助費等で二者合せて 15,713 圓、總支出の 9 割 5 分 1 厘を占めてゐる。

慈善團體 昭和十一年末に於ける慈善團體は 4、職員は 78 人にして收容人員 326 人、内男 243 人、女 83 人で個人經營に係る天理養徳院は最も多く 241 人を收容してゐる。

常設及農繁託兒所 昭和十一年末に於ける常設託兒所は 13、職員 54 人、收容託兒 806 人、經費 16,662 圓に及び次第に増加してゐる、同年七月末の農繁託兒所は 61、託兒 2,550 人、經費 3,065 圓で逐年増加の傾向がある。

行旅病死人 昭和十一年度末現在の行旅病人は 6 人で年度内に新に救護を受けた者は 39 人である、同年度中の行旅死亡人は 56 人で中 35 人は變死者である。

日本赤十字社及愛國婦人會 昭和十一年末に於ける赤十字社員は 28,218 人で中佩有功章 38 人、特別 70

9人、終身正17,763人、正社員9,708人で、愛國婦人會員は18,309人中佩有功章360人、特別維持22人、特別924人、通常17,003人となつてゐる。

勞 働

勞働統計實地調査結果 昭和十一年十月十日勞働統計實地調査の結果に依る工場數(原則として50人以上の勞働者を使用するもの)は69、勞働者は7,195人中男2,651人、女4,544人で一工場につき平均勞働者は104人である、鑛山(50人以上の勞働者を使用するもの)は1にしてその勞働者は191人中男165人、女26人となつてゐる、工場の男女使用の割合は女100に付男58.3人となつてゐる。

小作爭議 昭和十一年に於ける小作爭議は128件、關係者4,906人、中地主1,093人、小作人3,813人關係地1,785町歩、中田1,765町1段、畑19町9段で前年より53件、關係者3,752人、關係地1,511町4段少い。

健 康 保 險

工場及被保險者 昭和十一年度末に於ける健康保險法適用工場及事業場數は947で前年度に比し87(1割1厘)を増加してゐる。

被保險者は總數10,911人中男6,143人、女4,768人で前年度に比べて793人(7分8厘)を増してゐる。

保險給付及保險料 昭和十一年度中の保險給付は總件數25,968件に及び、その給付額は30,341圓である中傷病に關する給付は25,150件(9割6分8厘)20,851圓(6割8分7厘)で保險給付の大部を占め、死亡及分娩に關する給付は818件、9,490圓である、同年度中の保險料收入額は118,102圓で前年度より5,467圓(4分9厘)を増してゐる。

教 育

學齡兒童 昭和十二年三月一日現在に於ける學齡兒童總數は116,349人で男は58,991人、女は57,358人中就學始期既達者は101,342人、(男51,336人、女50,006人)就學始期未達者は15,007人(男7,655人、女7,352人)で前年度に比べ前者は469人を減少し、後者は666人を増して總數に於て197人を増してゐる、學齡兒童の中尋常小學校の在學者及卒業者は101,003人で、不就學兒童は339人ありその中就學猶豫は245人、就學免除は94人となつてゐる、就學始期既達者100人中の就學歩合は99.67人にして前年度に比し0.01人を減じてゐる。

小 學 校 昭和十二年三月一日現在に於ける小學校は322校ありその内譯は尋常小學校121、尋常高等小學校198、高等小學校3で前年度より2校少くなつてゐる。

學級は尋常339、尋常高等1,979、高等11、合計2,329で前年度に比し11學級を増してゐる、教員は總數2,591人内男1,744人、女847人で前年度より22人多い、教員を資格別に觀ると小學校本科正教員2,029人(7割8分3厘)、尋常小學校本科正教員173人(6分7厘)、専科正教員113人(4分4厘)、准教員7人(2厘)、代用教員269人(1割4厘)となつてゐる。

兒童は101,883人、内尋常科85,657人、高等科16,226人で前年度より尋常科に於て少く、高等科に於て多く、合計に於て257人(3厘)を減じてゐる。

入學者は23,432人内尋常科14,264人、高等科9,168人で前年度より393人(1分6厘)少く卒業者は尋常科13,570人、高等科6,973人、合計20,543人で前年度より532人(2分5厘)を減少してゐる。

師 範 學 校 縣立二校ありその學級19、教員は兼務者を除き41人で内有資格者39人、無資格者2人となつてゐる、生徒408人、入學者151人、卒業生144人で何れも前年と大差なく入學歩合は志願者百につき32人となつてゐる。

青年學校教員養成所 縣立農事試驗場に併置し學級1、教員12人、内専務者2人、兼務者10人で生徒は20人あり、隔年に20人内外の卒業生を出してゐる。

中 學 校 縣立5校、私立3校あり學級は合計111で教員の總數は他よりの兼務者を除き196人、一校當の教員は24.5人となつてゐる、教員の内有資格者は175人で總數の8割9分を占め、生徒は總數4,779人で前年より241人を増して一校當597人、教員一人當24.4人となつてゐる、卒業生は754人で前年度より56人多い、入學者は1,166人で入學者願書に對する割合は百人につき60.2人である

高等女學校 縣立6校、町立1校、私立2校、合計9校あり、學級は103、教員は本務者185人で中有資格者165人(8割9分2厘)となつてゐる、生徒の總數は4,699人で、逐年増加し前年度より242人(5分4厘)多く、卒業生は861人、入學者(第一學年)は1,124人となつてゐる、入學志願者百人に對する入學者の割合は70.4人である。

實業學校 (甲)校數は14でその内譯は農業3、工業2、商業2、職業學校7となつてゐる、學級は合計77内農業20、工業15、商業16、職業26で前年度より2學級を増し、教員155人、内農業42人、工業31人、商業32人、職業50人で前年度と大差なく生徒は總數3,363人で内農業856人、工業548人、商業669人、職業1,290人前年度より361人を増してゐる、入學者は985人でその内譯は農業227人、工業127人、商業205人、職業426人となり第一學年の志願者百人につき入學者の割合は農業72.1人、工業33.8人、商業54.1人、職業83.8人となつてゐる。

卒業生861人内農業147人、工業90人、商業105人、職業519人で前年度に比べて135人(1割8分6厘)を増してゐる。

實業學校 (乙) 農業2、職業2、合計4校あり、學級は13、内農業6、職業7にして前年度と移動なく兼

務者を除く教員は17人、内農業10人、職業7人である、生徒527人、内農業273人、職業254人で前年度に比し19人を増してゐるのみである。

入學者は224人、内農業101人、職業123人で本科の入學志願者百人に對す入學者は農業84.9人、職業91.8人で卒業者は169人、内農業81人、職業88人となつてゐる。

青年學校 青年學校令に基き昭和十年四月より新設の青年學校は234校その學級は527で教員は本務者202人、兼務者1,175人となつてゐる、指導員は670人で生徒の總數は14,254人内男11,040人女3,214人で一校當の生徒數は60:9人で入學者は7,354人、卒業者2,897人であるが年度内の退學者2,681人を算してゐるのは遺憾である。

盲啞學校 1校あり11學級で教員11人、生徒は94人で内學齡兒童は61人の過半數を占めてゐる、入學者は25人、卒業者は17人で前年度に比べて學級に於て1、教員に於て1人、生徒に於て14人、入學者に於て2人、卒業者に於て15人を増してゐる。

各種學校 22校あり學級107で教員は本務者132人、兼務者266人となつてゐる、縣内に本部を有つ天理教の教校が甚だ大きい爲生徒數も極めて多く4,558人となり、入學者及卒業者も前者6,989人、後者5,929人の多數に上り昭和十一年度の經費總額も收入97,979圓、支出80,610圓に達してゐる。

幼稚園 園數は17で逐年その數を増し組數54、保姆73人、幼兒1,628人、入園兒1,489人、保育滿期者1,240人で前年度より園數1、組數2、幼兒126人、入園兒164人、保育滿期者219人を各増してゐる。

圖書館 圖書館令に依る圖書館は館數86で藏書冊數は304,538冊、開館延日數22,820日で閱覽人員は290,082人となり前年度に比べて館數8、圖書冊數24,973冊、開館延日數1,535日を増してゐるが閱覽人員に於ては13,696人を減少し、一館當り一日の閱覽人員は92人餘となつてゐる。

青年團 青年團は男女合せてその數298で内男150、女148で團員の總數は38,121人、内男23,647人、女14,474人で支出經費は44,269圓となつてゐる、前年度に比し團數に於て5を増してゐるが團員は2,186人を減じ一青年團當りの經費は148圓餘となつてゐる。

公學費 昭和十一年度の公學費歳入總額は1,757,693圓、内縣費568,572圓、市費45,219圓、町村費1,143,902圓で前年度より62,146圓(5分1厘)を減じてゐる、歳出總額は5,183,415圓、内縣費1,524,893圓、市費403,214圓、町村費3,255,308圓で前年度より157,939圓(3分1厘)多い。

公學資産 昭和十一年度末に於ける公學資産の總見積價額は14,159,931圓で内縣に屬するものは3,647,963圓、市1,337,638圓、町村9,174,330圓で前年度より382,564圓(2分6厘)少くなつてゐる、建物の價額は8,713,146圓で總價額の6割1分5厘を占め土地價額は敷地附屬地を合せて2,919,474圓(2割6厘)圖書機械、標本器具價額は合せて2,527,311圓(1割7分9厘)となつてゐる。

社

寺

神

社 昭和十一年末の神社は1,520でその内譯は官幣社10、縣社24、郷社28、村社1,048、無格社409、招魂社1となつてゐる、この中神饌幣帛料供進指定神社は413となつてゐる。

神

職 昭和十一年末に於ける神職は總數328人内官幣社53人、縣社41人、郷社43人、村社188人無格者3人で前年末に比べて4人少く、神社一につき神職の數は官幣社5.3人、縣社1.7人、郷社1.5人村社0.2人となつてゐる。

寺

院 昭和十一年末の寺院は1,798で前年末より3ヶ寺を減じ眞宗の631ヶ寺が最も多く、淨土宗の346ヶ寺、眞言宗の340ヶ寺之に亞ぎ、其の他の各宗の寺院は合せて481ヶ寺に過ぎない。

住

職 寺院に仕ふる住職は昭和十一年末に於て總數1,322人で前年より67人を増してゐる、眞宗の545人は最も多く淨土宗の249人、眞言宗の200人、融通大念佛宗の142人等はその主なるものでその他は合せて186人に過ぎない、一寺院に對する住職の割合は0.7人に該る。

警

察

警察職員 警察部及縣下18警察署の職員總數は635人で内543人は警察官にして職員總數の8割5分5厘に該つてゐる。

定員巡査1人に對する人口は1,206人で更に之を警察署に屬する警部補巡査の總數517人に對比すれば1,206人に該つてゐる。

交通事故 昭和十一年に於ける自動車、自動自轉車、自轉車、電車、汽車、人力車、荷車等に依る交通事故の件數は171件なり其の最も多きは自動車の101件で總數の5割9分を占め、電車の37件、汽車の17件等順次之に亞ぎ、死者數は40人、傷者數は175人で歩行者の被害最も多く80件で死傷合せて83人に及んでゐる。

火災及消防 昭和十一年に於ける家屋火災の度數は130件で失火は117件に及び總數の9割を占め、之を住家非住家別に觀ると住家の内全燒棟數は77、半燒棟數34で其の燒失建坪は2,084坪となり、非住家は全燒棟數は46、半燒棟數は19で其の燒失延坪は493坪となつてゐる。

火災に依る損害見積總額は354,274圓にして前年より182,604圓少く火災度數1回に付2,725圓の割合である。

山林、原野の火災度數は51件あり前年より15件少い、燒失坪數は184,492坪で損害見積額は41,656圓となつてゐる。

消防組は昭和十一年末に於て消防組160あり、その組員の總數は19,116人で一年間の經費は9,984圓となつてゐる、ガソリン唧筒は自動車16、オートバイ1でその他のもの245あり腕用唧筒は次第に減少して280となつてゐる。

變 死 昭和十一年中の變死者の總數は289人で、前年より15人少く、之を種類別に觀ると自殺163人 被殺害8人、災害共の他118人にして自殺は總數の5割6分4厘に該る、自殺者の163人を因由別に觀ると其の主なるものは病苦に依る40人(2割4分5厘)精神錯亂の36人(2割2分1厘)である。

自殺者を年齢別に見れば50歳以上が56人にして其の首位を占め、20歳以上30歳未滿の35人 30歳以上40歳未滿の29人、40歳以上50歳未滿の20人等は最も多い。

投宿人員 昭和十一年中の投宿總人員は773,726人で一日平均2,114人の割合となり、前年中に比較すれば10,335人(1分4厘)を増してゐる、總數の中89,593人(1割1分6厘)は本縣人でその大多數は他府縣人が占め、682,661人(8割8分2厘)で外國人は1,482人に過ぎない。

精神病者 昭和十一年末に於ける精神病者は1,042人で前年より比し8人少く總數の中827人(7割9分4厘)は收容又は監置を要せない者である。

貸座敷 昭和十一年末の貸座敷數は75、娼妓は783人でその一戸當10人となつてゐる、同年中の遊興人員は477,642人、その費消金額は982,751圓で前年に比べて前者13,981人(3分)後者44,321圓(4分7厘)を各増加してゐる。

犯 罪 昭和十一年中に於ける犯罪の發生件數は10,674件にして前年に比し460件(4分1厘)を減少してゐる、犯罪中最も多いものは詐欺及恐喝の罪2,657件で強竊盜の罪2,261件、諸法令違反は2,043件、業務上横領の罪1,844件等はその發生の多いもので之等を合して8割2分5厘に該り、他の犯罪は併せて1割7分5厘に過ぎない。

縣外發生事件を含む檢舉件數は13,628件で前年より1,041件(8分3厘)を増してゐる。

衛 生

醫 師 昭和十一年末の醫師總數は335人、その免許資格別を觀ると官公私立専門學校卒業198人(5割9分2厘)大學卒業81人(2割4分1厘)試験及第50人(1割4分9厘)從來開業3人(9厘)限地開業3人(9厘)となつてゐる、以上の内女醫は26人にして總數7分8厘に該つてゐる。

醫師一人に對する人口の割合は1,861人で郡市別に觀て最も高いのは磯城郡の2,831人で最も低いのは奈良市の874人である。

齒科醫師 昭和十一年末の齒科醫師總數は145人で前年より8人多く、之を資格別に觀れば指定學校の卒業者は80人で總數の5割5分2厘に該り、試験及第は65人となつてゐる、總數の中女僅に9人に過ぎない。

藥劑師 昭和十一年末現在の藥劑師總數は239人(内女53人)で前年より8人を増したのみである、官公私立指定藥學専門學校卒業171人にして總數7割1分5厘に當り、試験及第者は68人となつてゐる

婆 昭和十一年末の産婆は657人にして前年末より10人多い。

病 昭和十一年中の法定傳染病患者は腸チブス414人、赤痢95人、ヂフテリヤ94人、猩紅熱50人、パラチブス27人、流行性腦脊髓膜炎4人、痘瘡1人で合計685人に及び前年に比して84人(1割4分)を増加してゐる、以上の中死亡率の最も高いものはヂフテリヤの3割9厘で流行性腦脊髓膜炎の2割5分赤痢2割、パラチブス1割8分5厘、腸チブス1割8分1厘の順となつてゐる。

痘 昭和十一年に於ける第一期公種痘16,835人で其の善感割合は9割8分である、同年中の第一期私種痘356人で善感割合は9割9分、第二期公種痘15,665人で其の善感割合7割6分、第二期私種痘は52人で善感割合は7割7分となつてゐる。

裁 判 及 登 記

民事裁判 昭和十一年中の各裁判所に於ける民事終局件数は8,203件、内第一審訴訟4,088件、控訴69件、抗告8件、非訟2,389件、和解38件、督促1,422件、強制執行189件で前年より965件(1割1分8厘)を増してゐる。

登記 昭和十一年中の登記件数は總數63,418件で登録税及手数料は311,436圓に及び前年に比べて前者は805件を減少し、後者は3,824圓を増してゐる、甲號の不動産登記は43,717件でその登録税は295,713圓に及び登記の最も主要な部分を占め、甲號登記の主なるものには以上の外産業組合登記564件、商事會社登記530件、農業用動産抵當權登記129件、養蠶實行組合登記93件等がある。

財 政

國 費 昭和十一年度に於ける國庫經費の本縣支出額は2,188,685圓で内經常部は1,314,624圓、(6割1厘)臨時部は874,061圓(3割9分9厘)となつてゐる。

縣 費 昭和十一年度に於ける縣歳入額は6,865,289圓で内經常部は3,845,865圓、臨時部は3,019,424圓となり前年度に比べて198,000圓(2分8厘)を減じてゐる、稅收入は3,054,302圓で歳入總額の4割4分5厘に該り、その他の主なるものは縣債の1,104,170圓(1割6分1厘)國庫補助金の991,930圓(1割4分4厘)繰越金の686,919圓(1割)等である。

歳出は總額6,410,622圓、内經常費2,668,101圓、臨時部3,742,521圓で前年度より34,252圓(5厘)多く、その主なるものは土木費1,718,564圓(2割6分8厘)、教育費1,340,715圓(2割9厘)警察費719,939圓(1割1分2厘)等である。

市町村費 昭和十年度に於ける市町村歳入額は9,573,643圓にして前年度より388,891圓(3分9厘)少く、歳入の内稅收入は3,741,257圓で總額の3割9分1厘を占め、繰越金1,560,975圓(1割

6分3厘) 國庫下渡金876,897圓(9分2厘) 寄附金486,471圓(5分1厘) 縣補助金397,609圓(4分1厘) 等はその主なるものである。

歳出は總額8,197,341圓で前年度より197,469圓(2分3厘) 少く、歳出の主なるものは教育費3,417,617圓(4割1分7厘) が筆頭で役所役場費は1,253,013圓(1割5分3厘) 土木費580,004圓(7分1厘) である。

諸税負擔 昭和十年度に於ける縣民負擔の租税は總額8,489,802圓で前年度より555,756圓(7分)を増してゐる、租税の内譯は直接國税1,906,706圓、縣税2,841,839圓、市町村税3,741,257圓で之を現住戸口に對比すると一戸當は國税15圓65錢、縣税23圓32錢、市町村税30圓70錢、合計69圓67錢で人口一人當は總額13圓79錢となり一人當にして前年度より97錢を増してゐる。

選舉及官公吏

選舉 毎七年改選の貴族院議員多額納税者議員の昭和七年九月第七回選舉に於ける議員定数は1人五選資格者は100人である、五選権を有する者の直接國税の總納額は107,305圓で前回より111,431圓少く、一人當納税額の最高は12,660圓、最低は381圓である。

昭和十一年十二月二十日現在の衆議院議員は5人で選舉有権者は137,950人である、人口千につき選舉有権者は221.3人で議員一人に對する有権者は27,590人である。

昭和十一年十二月二十五日の縣會議員は30人にして、その選舉有権者總数は133,927人で前年より有権者2,035人を増し、議員一人につき有権者は4,464人、人口は20,778人に該つてゐる。

昭和十一年末現在の市町村會議員は2,143人で、その内譯は市會議員36人、町會議員480人、村會議員1,627人となつてゐる、選舉有権者は市會10,757人、町會37,624人、村會85,546人、合計133,927人で一市町村當議員は14.19人、その有権者は887人となつてゐる。

官公吏 昭和十一年末に於ける縣職員の總數は719人、(警察官及學校職員を除く)その俸給年額は551,034圓で内譯は勅任1人奏任21人、判任171人、待遇職員254人、縣吏員102人、雇員166人となつてゐる、一人當の俸給年額は766圓39錢に該る。

昭和十一年末現在の市町村制に依る市町村吏員の總數は4,492人で報酬俸給年額は622,547圓で内名譽職は3,457人である、有給吏員一人當の俸給年額は450圓31錢に該る。